

教科(科目)	地歴(世界史B)	単位数	4 単位	学科・学年・コース・組	普通科・2、3年次
使用教科書	山川出版社 高校世界史B 改訂版				
副教材等	なし				

**1 学習目標**

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

**2 指導の重点**

- ・世界の歴史の大きな流れをつかむ。
- ・生徒の歴史に対する関心や世界史学習への意欲を育てる。
- ・世界の歴史の基本的な事項を理解する。
- ・他国や他地域の歴史を理解し、日本の歴史や文化をより客観的に見る目を養う。

**3 学習の計画**

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	○ガイダンス	・学習の仕方(世界史を学ぶ目的、年間計画、評価について)	1	・学習態度
	○先史の時代	・歴史時代に先立つ長い先史時代における、人類の進化の過程を大まかに学ぶ。	2	・課題
	○古代オリエント世界と地中海世界	・西アジア・地中海世界の風土、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動、エーゲ文明、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア・地中海世界の特徴を学ぶ。	4	・ワーク
	・古代オリエント世界		4	
	・ギリシア世界		4	・ノート
	・ローマ世界		4	
	○アジア・アメリカの古代文明	・南アジアの風土、インダス文明、アーリア人の進入以後の文化、社会、国家の発展に触れ、南アジア世界の形成過程を学ぶ。南アジアの多様な自然条件の中、文化的に異なった集団が互いに影響しあいながら、独自の宗教と社会制度を基盤とする南アジア世界を形成していった過程を概観する。	4	・定期考査
	・インドの古典文明		1	
	・東南アジアの諸文明		1	
	・中国の古典文明		2	
	・内陸アジアの文明		2	
	・南北アメリカ文明		2	
	○東アジア世界・内陸アジア世界の形成と発展	・東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を学ぶ。東アジアの農耕地帯に成立した中華文明と内陸アジアの乾燥地帯に台頭した遊牧国家の動向を中心に、東アジア世界・内陸アジア世界の形成過程を概観する。	3	
	・北方民族の活動と中国の分裂		4	
・東アジア文化圏の形成		4		
○内陸アジア世界の動向と諸地域世界		4		
・内陸アジア世界の動向と東アジア世界		4		
・モンゴル民族の発達		4		
	定期考査①		1	
○イスラーム世界の形成と発達	・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成、拡大の過程を学ぶ。また、イスラーム都市を核として海陸のネットワークが形成され、ユーラシア諸地域間の活発な交流についても概観する。	6		
・イスラーム帝国の成立		6		
・イスラーム世界の発展		2		
・インド東南アジア・アフリカのイスラーム化		2		
・イスラーム文明の発展		2		

前	○ヨーロッパ世界の形成と発展	・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開、西ヨーロッパの封建社会、都市の発達と王建の伸長に触れ、キリスト教徒ヨーロッパ世界の形成、変動の過程を学ぶ。ゲルマン人の活動やイスラーム勢力の進出により地中海世界が解体した後に、キリスト教を共通の基盤とするヨーロッパ世界が、それぞれの地域性を保ちながら東西に形成され、変動していった過程を概観する。	5 5 1 3 4 2	・学習態度 ・課題 ・ワーク ・ノート ・定期考査			
	・西ヨーロッパ世界の成立						
	・西ヨーロッパ世界の発展						
	○ヨーロッパ世界の形成と発展						
期	・東ヨーロッパ世界	・ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを学ぶ。	2 2				
	・西ヨーロッパ中世世界の変動						
	・西ヨーロッパの中世文化						
	○諸地域世界の交流						
後	・陸と海のネットワーク	定期考査②					
	・海の道の発展						
	○近代ヨーロッパの成立				定期考査③	3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 3 2 2	
	・ヨーロッパ世界の拡大						
	・ルネサンス						
	・宗教改革						
	・主権国家体制の形成						
	○近世ヨーロッパ世界の展開						
	・重商主義と啓蒙専制主義						
	・ヨーロッパ諸国の海外進出						
	・17～18世紀のヨーロッパの文化と社会						
	○近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立						
・産業革命							
・アメリカ独立革命							
・フランス革命とナポレオン							
○欧米における近代国民国家の発展	定期考査③	2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 2					
・ウィーン体制の成立							
・ヨーロッパの再編							
・南北アメリカの発展							
・19世紀欧米の文化							
○アジア諸地域の動揺							
・西アジアの変容							
・南アジア・東南アジアの植民地化							
・東アジアの動揺							
○帝国主義とアジアの民族運動							
・帝国主義と列強の展開							
・世界分割と列強対立							
・アジア諸国の改革と民族運動							

後 期	○二つの世界大戦 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の欧米諸国 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦	帝国主義による世界的な対立関係と、総力戦のもたらした被害の大きさを理解する。また、アジア・アフリカの植民地や従属国の動向も含めて巨視的にとらえる。	5 2 5	・学習態度 ・課題 ・ワーク ・ノート
	○冷戦と第三諸国の独立 ・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米ソの歩み寄り ・石油危機と世界経済の再編  定期考査④	戦後の国際秩序と冷戦構造について理解する。アジア・アフリカ・南米などの植民地の独立を南北問題もふまえてとらえさせる。また、国際関係の多様化を、東西融和、パレスチナ問題、石油危機などを背景に総合的に学ぶ。	3 3	・定期考査

#### 4 課題・提出物等

・課題    ・ワーク    ・ノート
---------------------

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
<b>関心・意欲・態度</b> 世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	<b>思考・判断・表現</b> 世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	<b>資料活用の技能</b> 世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	<b>知識・理解</b> 世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加の仕方や態度 ・課題、ワーク、ノートなどの提出物などの内容や取り組み ・小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

世界の歴史の大きな枠組みと流れを学習します。特に、近世から現代あたりまでに焦点をあてて、世界の歴史の展開を大きな時間的枠組みの中で学習します。「世界史B」を大学入試の受験科目として考えている人は必ず履修してください。
--

(科目)	地歴(日本史B)	単位数	4 単位	学科・学年・コース・組	普通科・2, 3年次～
使用教科書	山川出版『高校日本史B』 改訂版				
副教材等	なし				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

- ・世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察する力を養う。
- ・我が国の文化と伝統についての認識を深める。
- ・文化財保護の重要性について理解する。
- ・歴史を考察する基本的な方法や態度を育てる。

3 学習の計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
	○ガイダンス	・学習の仕方(日本史を学ぶ目的、年間計画、評価について)	1	・学習態度
前	第1章 古代社会の形成 1. 日本文化のはじまり 2. 農耕の開始 3. ヤマト政権と古墳	・人間がまだ文字を知らない時代の歴史は、地中に埋まっている遺跡から考古学の成果によってわかることを考えさせる。 ・石器時代には、平等な社会だったが、農耕がはじまると貧富の差があらわれ、権力者が出現してくることを意味をとらえさせる。 ・自分たちの地域に残る古墳と畿内にある巨大な古墳とのかかわりを調べさせる。	17	・課題 ・ワーク ・ノート ・定期考査
	第2章 律令国家の形成 1. 律令国家の成立 2. 律令国家の発展 3. 律令国家の変質	・飛鳥・奈良に古代の都が成立した意味を考えさせる。 ・古代国家が中国など東アジア地域との関係のなかで成立したことをとらえさせる。 ・古代国家の政治・経済・文化の特徴をとらえさせる。古代の都と地方の関係を調べさせる。 ・古代国家の税制の特徴を考えさせる。 ・鎮護国家仏教の特徴を考えさせる。 ・律令社会の変質過程をとらえさせる。	18	
	前期中間考査			
	第3章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 荘園の発達と武士の台頭	・藤原氏が摂関閥白として権力をもっていく過程をとらえさせる。 ・大陸文化をふまえた貴族文化を考えさせる。 ・在地の豪族が土地を守るため武装し、一族郎党が領地を支配するとともに貴族に土地を荘園として寄進して保護を受ける荘園制が成立していく過程を考えさせる。	16	
	第4章 武家社会の形成 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立と発展 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化	・武士がしだいに権力を獲得していく過程を考えさせる。 ・御家人制度を基盤とする鎌倉政権の意義をとらえさせる。 ・農工業の発達と流通の発展の関係を考えさせる。 ・元寇とそれが鎌倉幕府の衰退につながる関連を考えさせる。 ・執権政治と悪党の出現の意味をとらえさせる。 ・新仏教の誕生を中心に文化の特徴をとらえさせる。		
	前期期末考査			
期	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 下剋上の社会 3. 室町文化 4. 戦国の動乱	・鎌倉幕府滅亡後、南北朝の内乱が長い間続くのはなぜか考えさせる。 ・室町幕府の性格と対外関係の特徴を考えさせる。 ・惣村が形成されていく意義と特徴を考えさせる。 ・惣村を基盤とする一揆がなぜおこってきたのかを考えさせる。 ・北山文化・東山文化を理解させる。 ・戦国時代とはどんな時代であったのかその特徴を考えさせる。	17	
	第6章 幕藩体制の成立 1. ヨーロッパ人の来航 2. 織豊政権 3. 江戸幕府の成立	・大航海時代とは何か考えさせる。 ・織田信長の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・豊臣秀吉の天下統一政策の特徴をとらえさせる。 ・桃山文化の特徴を理解させる。 ・徳川家康の政権樹立過程をとらえさせる。	12	

後	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の展開 2. 経済の発展 3. 元禄文化  後期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>徳川幕藩体制の特徴を理解させる。</li> <li>文治主義による支配を理解させる。</li> <li>諸産業の発展と、交通や流通の発達についてとらえさせる。</li> <li>元禄文化の特徴を理解させる。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習態度</li> <li>課題</li> <li>ワーク</li> </ul>
	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革と宝暦・天明期の文化 2. 幕府の衰退と近代への道 3. 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>享保の改革とこの時期の文化について考えさせる。</li> <li>寛政、天保の改革と経済の変化についてとらえさせる。</li> <li>化政文化を理解させる。</li> </ul>	29	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート</li> <li>定期考査</li> </ul>
期	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕府の滅亡 2. 明治維新 3. 立憲国家の成立 4. 大陸政策の展開 5. 近代産業の発展 6. 近代の文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>開国の影響と討幕運動の展開について理解させる。</li> <li>近代化に向けての諸政策についてとらえさせる。</li> <li>明治政府への不満と自由民権運動を理解し、憲法の制定・国会開設の流れについて考えさせる。</li> <li>朝鮮半島や中国をめぐる国際情勢と、日本の外交政策についてとらえさせる。</li> <li>近代産業の育成とさまざまな社会制度の改革について理解させる。</li> </ul>	18	
	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. 政党政治と大衆文化 3. 恐慌の時代 4. 軍部の台頭 5. 第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦と日本との関わりを理解させる。</li> <li>政党政治の流れをとらえさせる。</li> <li>戦後不況から恐慌の発生について考えさせる。</li> <li>対外強硬と、軍部ファシズムが台頭する流れを理解させる。</li> <li>第二次世界大戦の開始と戦時下の生活、敗戦までの流れを理解させる。</li> </ul>		
	第11章 1. 占領下の改革と主権の回復 2. 55年体制と高度経済成長 3. 現代の情勢  後期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の諸改革と復興への歩みについてとらえさせる。</li> <li>高度成長期から現在までに至る流れを理解させる。</li> </ul>		

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>課題</li> <li>ワーク</li> <li>ノート</li> </ul>
--

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、態度を身につける努力をしている。	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできる。	歴史的事実や歴史の構造について、自らの力で調べ、まとめることができる。真理を探究する方法を身につけている。	自ら調べた内容をもとに歴史的事実や歴史の構造について理解している。
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>課題、ワーク、ノートなどの提出物などの内容や取り組み</li> <li>小テスト、定期考査</li> </ul> などから、総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

日本の歴史の大きな枠組みと流れを学習します。原始（旧石器・縄文）・古代（飛鳥・奈良）からの日本の歴史を学習します。日本の歴史の展開を大きな時間的枠組みの中で学習し、現代の日本がどのように成立してきたのかを考えます。事項の暗記だけでなく、大きな時代の流れをつかみながら、現在を生活している自分たちについて考える視野を身につけることが目標です。そのため、項目ごとに教科書を読解し各自でプリントを完成させながら、理解を深めていきます。「日本史B」を大学入試の受験科目として考えている人は必ず履修してください。

教科(科目)	地歴(世界史A)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科・1年次～
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂版 世界史A』				
副教材等	なし				

1 科目目標

近現代を中心に、諸文明の特質と世界の一体化の過程を地理的条件と我が国の歴史の展開との関連に留意しながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から追及させ、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ・16世紀以降の近現代史を中心に、世界の歴史の大きな流れをつかむ。
- ・生徒の歴史に対する関心や世界史学習への意欲を育てる。
- ・世界の歴史の基本的事項を理解する。
- ・他国や他地域の歴史を理解し、日本の歴史や文化をより客観的に見る目を養う。

3 学習計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前 期	○ガイダンス ○ユーラシアの諸文明 ・東アジア(中国文明～宋代) ・南アジア ・東南アジア ・西アジア(オリエント文明～イスラーム) ・古代ギリシアとローマ ・東西ヨーロッパ世界の形成 ・西ヨーロッパの膨張と危機 ○結びつく世界と近世の日本 ・ユーラシア海域と季節風貿易 ・内陸アジアとオアシスの道 ・東アジア海域の交流と日本 ・地中海海域とユーラシア ・16世紀の世界と一体化のはじまり ・明・清帝国の発展 ・オスマン帝国 (定期考査①)	・学習の仕方(世界史を学ぶ目的、年間計画、評価について) ・黄河文明、皇帝政治、漢字・儒教・朝貢貿易など東アジアの文化 ・インダス文明とヒンドゥー教、仏教の文化 ・半島と島嶼部の諸文化 ・メソポタミア文明、一神教、イスラーム文化の広がり ・ヨーロッパの風土と古代ギリシア・ローマ ・フランク王国と封建社会の成立、ビザンツ帝国 ・ローマ教会と十字軍、集権国家の形成 ・ユーラシア海域・内陸アジアの交易から、各地域の特産物や経済・文化交流の様子について考察し、さらに、地中海域とユーラシアとのつながりを学ぶ。	1 10  5	・学習態度 ・課題 ・ワーク ・ノート ・定期考査
	・アメリカの征服と植民地化 ・ルネサンス ・宗教改革 ・ハプスブルク帝国と主権国家 ・絶対王政と議会王政 ・大西洋経済 ○ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ・啓蒙とアメリカ独立 ・フランス革命 ・イギリス産業革命 (定期考査②)	・香辛料取引から大航海時代、世界の一体化の展開 ・明、清帝国が作り上げた国際秩序 ・オスマン帝国の社会とそこでの異教徒の立場 ・前期中間のまとめ ・スペイン・ポルトガルの進出とアメリカ征服 ・イタリア・ネーデルラントでの展開、科学技術の進歩 ・ルター、カルヴァン、英国教会、カトリックの改革 ・スペイン、オランダの繁栄と、主権国家確立 ・フランス絶対王政、イギリス議会王政 ・西ヨーロッパ中心の経済システム	1 10  7	
	・ウィーン体制と自由主義改革 ・1848年とイギリス・フランス ・クリミア戦争と中東欧 ・ラテンアメリカと世界資本主義 ○アジア諸国の変貌と近代の日本 ・19世紀のイスラーム世界 ・南アジア・東南アジアの植民地化 ・東アジアと列強 ○帝国主義の時代 ・分割を通じて進む世界の一体化 ・帝国主義の国際対立 ・植民地・従属国での民衆の抵抗 ・東アジアでの民族のめざめ (定期考査③)	・ナポレオン後のヨーロッパの支配体制 ・二月革命から諸国民の春、フランス第二帝政の展開 ・ロシアの南下政策とイタリア、ドイツの統一 ・中南米諸国の独立と世界資本主義システム ・イスラーム世界の社会改革 ・列強による南、東南アジア植民地化 ・アヘン戦争からの列強の中国進出 ・列強のアフリカ、アジア、南太平洋の分割 ・ドイツを軸に、日露戦争前後の国際関係 ・アフリカ、西アジア、インドの民族運動 ・日露戦争と日韓併合、辛亥革命 ・後期中間のまとめ	1 (35)	
	○急変する人類社会 ・工業社会の成熟 ・国民の統合 ○世界戦争と平和 ・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ・ワシントン体制 ・1920年代のアメリカとヨーロッパ ・アジア諸地域の抵抗と独立 ・東アジアの民族運動 ・世界恐慌 ・ファシズムの台頭 ・第二次世界大戦前夜の世界 ・第二次世界大戦	・工業化の進展と大衆文化の成立 ・社会主義運動と社会政策 ・第一次世界大戦の勃発とその特徴 ・パリ講和会議、ワシントン会議。 ・大衆民主主義の発展とアメリカ、ドイツ、ソ連 ・西アジア、インド、東南アジアの民族運動 ・朝鮮、中国の民族運動 ・大恐慌とニューディール政策、ブロック経済化 ・イタリア・ドイツのファシズムの展開 ・ドイツ、日本の拡大政策 ・独ソ戦から太平洋戦争、第二次大戦の特徴	1 16	・学習態度 ・課題 ・ワーク ・ノート ・定期考査

<ul style="list-style-type: none"> <li>○三つの世界と日本の動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦の開始</li> <li>・冷戦の激化と緊張緩和</li> <li>・第三世界の出現</li> </ul> </li> <li>○地球社会への歩みと日本</li> <li>○持続可能な社会への展望</li> </ul> <p style="text-align: center;">(定期考査④)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西両陣営の成立と戦後世界秩序の形成</li> <li>・集団防衛、核開発競争から平和共存の模索</li> <li>・アジア、アフリカ諸国の独立と結集</li> <li>・多極化と冷戦終結、新世界秩序の模索</li> <li>・後期末のまとめ</li> </ul>	1 (35)	
		70	

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート・プリント</li> <li>・確認プリント</li> <li>・成績不振者課題</li> </ul>
--

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加の仕方や態度 ・課題、ワーク、ノートなどの提出物などの内容や取り組み ・小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

地球規模で世界が一体化する16世紀以降の近現代史を中心に、世界の歴史を学習します。現代の世界がどのようにして形成されたかを、日本の歴史と関連付けながら学習します。「世界史B」を大学入試の受験科目として考えている人は、「世界史B」の内容を補完するつもりで、この科目を履修してください。
---

教科(科目)	日本史A	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科・2年次～
使用教科書	第一学習社「高等学校 改訂版日本史A 人・くらし・未来」				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

近現代を中心にした日本の歴史を大きな流れでとらえ、世界的視野の中で日本がどのような国際環境に置かれてきたかを考えながら、現代の私たちがどのように歩むべきか、どのような課題があるかを自分に引きつけて考える思考力を養い、国際社会において主体的に生きる日本人としての資質を身につける。

2 指導の重点

- ・江戸後期から明治維新を中心に日本の近代化について流れをつかむ。
- ・世界的視野の中で日本の近代化とその背景について理解する。
- ・明治以降の近代国家建設の中で国民意識がどのように形成されてきたかを考える。
- ・事項の暗記のみでなく大きな歴史の流れをつかみ現代の自分たちに引きつけて課題を考える。

3 学習の計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
前 期	ガイダンス 各時代の区分 第1部 私たちの時代と歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の区分について知る</li> <li>・古代から近世まで、日本の前近代史を概観する</li> <li>・江戸時代後半の社会について基本的な理解を深める</li> </ul>	1 2 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区切りごとにまとめのプリント(小テスト)</li> <li>・ワークプリント</li> </ul>
	第2部 近代の日本と世界 第1章 近代日本の形成と19世紀の世界 第1節 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 ・せまってくる外国船 ・ちからを蓄える庶民 ・揺らぐ幕藩体制 ・近代思想のいぶき ・国民文化の源流 第2節 明治維新と近代国家の形成 ・黒船がやってきた ・志士たちの時代 ・手を結ぶ薩長 ・近代との出会い ・江戸が東京になった ・天皇の軍隊がつくられた ・スローガンは「富国強兵」 ・欧米文化がはいつてきた ・日本の国境が定まった ・爆発する農民や士族の不満 ・国会開設が決まった ・地主制が進行した ・立憲政治がはじまった ・国会がはじめて開かれた	<p>&lt;日本の近現代史(江戸時代末～現代)&gt; ※板書と授業プリントを併用して教科書に沿って説明し、生徒がまとめていく ※基本的に教科書の順序に従い、適宜内容を精選する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎖国制度の変化を世界史的な流れの中で捉える</li> <li>・江戸末期の社会経済的变化を学ぶ</li> <li>・社会的変動の中で幕藩批判の高まりを学ぶ</li> <li>・国学、洋学ほか新しい思想の展開を知る</li> <li>・庶民生活と意識の変化について考える</li> </ul>	1 1 2 2 1  2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期中間調査課題</li> <li>前期期末調査課題</li> </ul>
後 期	第2章 近代日本のあゆみと国際関係 第1節 国際関係の推移と近代産業の成立 ・合言葉は条約改正 ・清国との対立が深まった ・政党政治が発した ・ロシアと対立を深めていく ・アジアへの侵略がはじまる ・日本の生糸が世界を制する ・国際経済に船出する ・貧富の差が広がった ・国家主義が台頭する ・西洋文化が広がっていく ・明治の文化が開いた 第2節 政党政治の展開と大衆文化の形成 ・民衆が政治を動かした ・最初の世界大戦に日本も参戦した ・成金の時代がやってきた ・朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ・日本は米英に歩調をあわせた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条約改正の道のりについて流れを理解する</li> <li>・朝鮮半島をめぐる中国との対立について理解する</li> <li>・政府と政党の接近について外交との関連で理解する</li> <li>・中国をめぐる国際関係と日本の対応について学ぶ</li> <li>・日露戦争前後の国際関係と日本の対外政策を学ぶ</li> <li>・近代産業の発展を時代背景の中で理解する</li> <li>・金本位制、財閥形成について知る</li> <li>・資本主義化に伴う社会問題発生について知る</li> <li>・国家主義的思想の広がりを時代背景の中でとらえる</li> <li>・西洋文化の受容と生活の変化について知る</li> <li>・明治期の学問、芸術などの発展を学ぶ</li> </ul>	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区切りごとにまとめのプリント(小テスト)</li> <li>・ワークプリント</li> <li>後期中間調査課題</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次護憲運動と大正政変の流れを理解する</li> <li>・第一次世界大戦の国際関係と日本の関わりを理解する</li> <li>・大戦景気と生活の圧迫について学ぶ</li> <li>・大戦後の民族運動の高まりを国際関係の中でとらえる</li> <li>・国際協調外交の展開について理解する</li> </ul>	1 1 1 1 1		



<ul style="list-style-type: none"> <li>・抑圧からの解放をめざして</li> <li>・「平民宰相」が登場した</li> <li>・モダンな都市と文化が出現した</li> <li>・学問と芸術に新風が吹く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会運動の広がりについて学ぶ</li> <li>・政党政治の展開の流れを学ぶ</li> <li>・都市化の進行と大衆文化の形成について学ぶ</li> <li>・大正昭和期の学問、芸術について概観する</li> </ul>	1 1 1 1	
<p>第3節 第二次世界大戦と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恐慌の風が吹きあれる</li> <li>・日本の外交が行きづまる</li> <li>・軍部の暴走がはじまった</li> <li>・中国との長い戦いがはじまった</li> <li>・すべてが戦争に協力させられた</li> <li>・アメリカとの戦争がはじまった</li> <li>・生活も文化も戦争に染まった</li> <li>・アジアの民衆を苦しめた</li> <li>・戦争が終わった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協調外交から強硬外交への転換の流れを理解する</li> <li>・中国進出をめぐる軍部の台頭について学ぶ</li> <li>・国際関係の変化と日本の中国侵略について学ぶ</li> <li>・戦時体制の確立について流れを学ぶ</li> <li>・第二次世界大戦の展開、戦時下の国民生活、戦争終結とその後のあゆみについて、できるだけ客観的に流れを学び現在への教訓とする</li> </ul>	1 1 1 1 1 1 1 1 1	
<p>第3部 現代の日本と世界</p> <p>第1章 現代の日本と世界</p> <p>第1節 日本の再出発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・占領軍がやってきた</li> <li>・日本が生まれかわる</li> <li>・新しい国のしくみ</li> <li>・飢えとのたたかい</li> <li>・民主化から経済復興へ</li> <li>・複雑な環境のなかでの独立</li> </ul> <p>第2節 独立後の政治と対外関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和への願いが叫ばれた</li> <li>・保守と革新の正面衝突</li> <li>・奇跡の経済成長がはじまった</li> <li>・新たな戦争にまきこまれた</li> <li>・2つのショック</li> <li>・経済大国が誕生した</li> <li>・バブルはこうしてふくらんだ</li> <li>・大きな歴史の転換点をむかえた</li> <li>・政局と経済が混迷する</li> <li>・これからの日本について考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GHQによる占領政策と民主化について学ぶ</li> <li>・新憲法の成立過程と内容について学ぶ</li> <li>・終戦直後の政党活動と国民生活について学ぶ</li> <li>・冷戦と日本の独立について学ぶ</li> </ul>	1 1 1 1	後期期末考査課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和運動と55年体制、安保闘争について学ぶ</li> <li>・高度経済成長とベトナム戦争について学ぶ</li> <li>・1970～80年代の政治・経済について学ぶ</li> <li>・冷戦後の国際状況を学び、日本が果たすべき役割について考える</li> </ul>	1 1 1 1	

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノート・プリント</li> <li>・考査前のまとめプリント</li> <li>・成績不振者課題</li> </ul>
---

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の近現代の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
評価方法 ・定期考査 ・授業中の作業課題への取り組み ・提出物 ・学習活動への参加の仕方や態度、出席状況			

#### 6 担当者からの一言

<p>日本史の基礎的な科目です。近現代（江戸後期～現代）を中心とする日本の歴史を学習します。特に、日本を取り巻く諸外国との関係の中で、現代の日本がどのように成立してきたのかを考えます。事項の暗記だけではなく、大きな時代の流れをつかみながら、現在を生きている自分たちについて考える視野を身につけることが目標です。</p>
---

**地理A**

教科(科目)	地歴科 地理A	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科・2年次、3年次
使用教科書	第一学習社 新版高等学校地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ 帝国書院 標準高等地図-地図で読む現代社会-				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

地図の読図・描図など作業的・体験的な学習を通して基本的な地理的知識と技能を身につけ、地理的な見方や考え方を養う。自然地理的な理解に加え、人文・社会地理的な視野を身につけ、世界の様々な地域の暮らしと文化について理解する中で自分たちのおかれた環境について考え、現代の諸課題について主体的に取り組んでいく姿勢を身につける。

2 指導の重点

- ・一方的な講義形式のみでなく、作業課題を主体的に行いながら理解を深める。
- ・自然環境と生活や文化との関わりについて考察し、様々な知識を関連させて考える力を身につける。
- ・様々な地域について理解を深め、互いの生活文化を尊重し世界の中での日本について考える。

3 学習の計画

学期	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前期	導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の地理的データの確認</li> <li>世界的視野からみた自然と生活について理解する                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境と適応の関係を学ぶ</li> <li>・地球の地帯構造とプレート移動について学ぶ</li> <li>・地形の形成要因と現象を生活と関連させる</li> </ul> </li> <li>・気候（気温・風・降水）の基本的事項の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候区分と各気候の特徴をまとめる</li> <li>・各地域の気候と生活を整理し理解する</li> <li>・雨温図とハイサーグラフの使い方を学ぶ</li> </ul> </li> </ul>	2	授業態度 課題 考査
	第2編 世界の諸地域の地域性		15	
	1章 世界の人々の生活を取りまく環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな環境のなかで生きる人々</li> <li>・世界的視野からみた地形</li> <li>・さまざまな地形と生活</li> </ul> 前期中間考査		1	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的視野から見た気候</li> <li>・世界の気候と生活</li> </ul> 前期末考査		16	
			(35)	
後期	(前期からの継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人種、民族、国民について理解する</li> <li>・言語・宗教について特徴と分布を学ぶ</li> <li>・民族紛争について考える</li> <li>産業の地域性 農業、鉱工業の特徴と分布を知る                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の自然と生活について学ぶ</li> </ul> </li> </ul>	16	授業態度 課題 考査
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の民族の生活と文化</li> <li>・生活・文化を支える産業の地域性</li> </ul> 後期中間考査		1	
	※ 日本の都道府県・県庁所在地の確認、 ※ 世界の主要国・首都の確認		2	

第1編 地理情報の活用と現代世界の特色 序章 身近な地図に親しもう 1章 球面上の世界と地図 ・球面で世界を考えよう ・世界地図の特徴を知ろう ・新しい地図表現を活用しよう  生活圏の諸課題と地理的考察 ・日常生活と結びついた地図 ・自然環境と防災 ・生活圏の地理的な諸課題と地域調査  後期末考査	基本的な地図の使い方を知り使ってみる	10	授業態度 課題 考査
	・地球の姿、経緯度を理解する ・世界地図の特徴を知り用途に応じて使い分ける ・地図の歴史を学ぶ ・様々な新しい地図表現を知る	1	
	・身近な地図を読みこなして理解を深める ・自然災害に備えた暮らしについて学ぶ ・地域調査の方法や分析とまとめについて学ぶ	1	
		2	
		2	
	(35)		
		70	

#### 4 課題・提出物等

課題プリント、作業プリント、自主的課題
---------------------

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題や地理的事象に関する関心を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性を踏まえて考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて構成に判断する。	地図や統計など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通し、現代世界の地理的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国及び世界の生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。
評価方法 ・ 定期考査 ・ 授業中の作業課題への取り組み ・ 提出物 ・ 学習活動への参加の仕方や態度、出席状況			

#### 6 担当者から一言

地理の基礎的な科目です。現代世界を考える上で、地図帳の使い方や地球の姿、気候などの自然条件などを学び、その上で人間が作り上げてきた社会条件についても考えながら、地球上で生活するさまざまな人間の姿を学びます。世界の生活・文化の特色や地域性、現在の地球的課題について考察しながら、その中で自分が今いかに生きていくかを考えていくことがこの科目の意義です。
--

教科(科目)	地歴(地理B)	単位数	4 単位	学科・学年・コース・組	普通科・2年次～
使用教科書	東京書籍 地理B 帝国書院 標準高等地図-地図で読む現代社会-				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

### 2 指導の重点

1. 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化等の事象を通して現代世界の特色を系統地理的に考察する。
2. 現代世界を地域（市町村規模、国家規模、州・大陸規模）のスケールを踏まえながら地誌的に考察する。
3. 現代世界の諸課題（国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題）の現状と背景を理解し、解決策を探る。
4. 地理という科目が世界を捉えるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身に付ける。

### 3 学習の計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
前期	○ガイダンス	・学習の仕方（地理Bを学ぶ目的、年間計画、評価について）	2	・学習態度
	○地図の種類と利用	・都道府県と主要各国の位置確認 ・球体と平面の関係を学び、地図の種類と利用法を学ぶ。	6	・自主的な取り組み
	第1編 さまざまな地図と地理的技能	地図記号を覚える。		・定期考査
	第1章 地理情報の表現方法	・活躍する地理情報と地図、変化してきた地図を考える		
	○第1節 球体としての地球	・球体としての地球、時差とサマータイム等	8	
	○第2節 地図情報と地図	・地図の種類と特徴等		
	○第3節 地理情報を地図化する	・地域調査に役立つ地図の活用等		
	第2章 地図の活用と地域調査	・テーマの設定、調査の準備、資料の収集と整理、及び調査内容の分析を行い、考察する。	8	
	第2編 現代世界の系統地理的考察			
	第1章 自然環境	・地球表面の起伏である世界の地形などを学ぶ。		
	○第1節 世界の地形	・地球規模でみた気温と降水量・大気の流れなどを学ぶ。	18	
	○第2節 世界の気候	・世界の気候区分と土壌、気候区分と生活などを学ぶ。		
	○第3節 日本の自然環境	・日本の地形・気候と自然災害について学ぶ。		
	○第4節 世界の環境問題	・地球規模の環境問題について学ぶ。		
	第2章 産業と資源			
	○第1節 産業の発展と産業地域	・世界の農林水産業の概要と食糧問題などを学ぶ。		
	○第2節 農林水産業			
	○第3節 食糧問題		18	
	○第4節 エネルギーと鉱産資源	・世界のエネルギー資源と課題について学ぶ。		
	○第5節 資源・エネルギー問題	・工業の立地、形成と変容、多国籍企業などを学ぶ。		
	○第6節 工業の立地と工業地域の変容			

後 期	○第7節 第三次産業と交通・通信	・世界の交通、情報通信、貿易、観光などを学ぶ。	8	・学習態度 ・課題 ・自主的な 取り組み ・定期考査
	○第8節 消費と観光 ○第9節 貿易と経済機構			
	第3章 人口、都市・村落		10	
	○第1節 人口 ○第2節 都市・村落	・世界の人口の諸問題を学ぶ。		
	○第3節 居住・都市問題	・村落や都市の形態、変容、諸問題を学ぶ		
	第4章 生活文化、民族・宗教			
	○第1節 生活文化 ○第2節 民族・言語・宗教			
	○第3節 民族問題	・世界の衣服、食生活、住居を学ぶ。		
	○第4節 現代の国家と領土問題	・世界の民族、言語、宗教を学ぶ	60	
	第3編 現代世界の地誌的考察	・民族、領土問題等を学ぶ。		
	第1章 現代世界の地域区分			
	○第1節 地域区分の方法と意義			
○第2節 地誌的な考察方法と この教科書の事例地域				
第2章 現代世界の諸地域				
○第1節 東アジア ○第2節 東南アジア		諸地域ごとの、自然環境、農業、工業、人口、文化等につ いて学ぶ。		
○第3節 南アジア				
○第4節 西アジア・中央アジア				
○第5節 北アフリカとサハラ以南アフリカ				
○第6節 ヨーロッパ ○第7節 ロシア				
○第8節 アングロアメリカ				
○第9節 ラテンアメリカ ○第10節 オセアニア				
第3章 現代世界と日本				
○第1節 日本が直面する地理的諸課題	これまでの学習内容を生かし、将来の国土像をえがくこと		2	
○第2節 日本が抱える地理的諸課題を探究する	を目標に、地球規模の視点から、日本の抱える地理的諸 課題を探究し、その解決の方向性を考えていく。			

#### 4 課題・提出物等

・課題 ・自主的な取り組み ・ノート 他

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、地理情報と国際社会について興味・関心をもつ。	地理的事象から課題を見だし、地理的視野に立って多面的・多角的に系統立てて考察し、思考判断した過程結果を言語活動等を通じて表現する。	地理情報を収集し、有用な情報を選択活用することを通して地理的事象を追求する方法を身に付けるとともに、地図に慣れ親しみ、情報を収集選択する。	世界の諸事情・諸課題についての基本的な事柄を、環境と結びつけながら理解し、その知識を身に付ける。
以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加の様子や態度 ・課題、プリントなどの提出物などの内容や取り組み ・小テスト、定期考査 などから、総合的に評価します。			

#### 6 担当者からの一言

地球の自然環境と社会環境を学習し、そこから文化・民族性の多様性に焦点をあてて学習します。また、地図や図表を用いて、資料を読み解く内容を盛り込むので、「地理B」を大学入試の受験科目として考えている人は必ず履修してください。

現代社会

教科（科目）	公民科 現代社会	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科：1 年次～
使用教科書	高等学校 新現代社会（帝国書院）				
副教材等	なし				

1 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・ 青年期と自己の形成について自覚を深めさせる。 ・ 現代の民主政治と政治参加の意義を考えさせる。
- ・ 個人の尊重と法の支配について理解させる。 ・ 正義について考察させる。
- ・ 現代の経済社会と経済活動のあり方について考察させる。
- ・ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割について考察させる。

3 学習の計画

学 期	単 元 名	学 習 活 動（指 導 内 容）	時間	評価方法
前期	導入 現代社会の見方・考え方	・ 学習の仕方（学ぶ目的、年間計画、評価について）	1	定期 考査  課題
	・ 選挙制度とその課題	・ 現代社会を学ぶ意義と必要性を理解する。	1	
	・ 選挙に行こう	国民の政治参加、選挙制度とその課題など	1	
	現代社会の見方・考え方	選挙までの道のり、選挙に関するQ&Aなど	1	
	第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方		3	ノー ト  授業 への 取り 組み
	第1章 現代の社会と自己実現		3	
	第1節 青年期の意義	青年期、発達課題など	3	
	・ 青年期について考えよう	悩みと向き合う時間、フラストレーションなど		
	・ 悩むことについて考えよう	男女平等と社会の変化など		
	・ 男女について考えよう			
	前期中間考査		<u>1</u>	
	・ 社会参画について考えよう	社会の一員として、働くことの意義など	2	
	・ 何のために働くのか	働く事への意義、高齢者の労働の実態など	2	
	第2節 よく生きるとは			
	・ 生きることについて考えよう	よりよく生きるとは、幸福と正義など	2	
	・ 学ぶことについて考えよう	近代科学の精神など	2	
	・ 宗教について考えよう	宗教の意味、世界の宗教など	4	
前期末考査		<u>1</u>		
・ 日本人の思想について考えよう	東洋西洋の影響を受けた思想など	3		
・ 日本の伝統と文化について考えよう	多様性のある日本、新しい文化の創造など	2		
第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理				
第1節 民主社会の原理と日本国憲法				
・ 近代立憲主義の原理	国家、国民主権と民主主義、基本的人権の尊重など	2		
・ 近代立憲主義の広がり	近代市民革命、自由国家と福祉国家など	3		

後期 後期中間 後期末	・日本国憲法	憲法の制定、三大原理など	4
	・平等権と差別	憲法が保障する平等権、差別をなくす試みなど	2
	後期中間 後期末		<u>1</u>
	・自由権（1）	国家からの自由、精神的自由など	3
	・自由権（2）	身体的自由、経済的自由など	3
	・社会権、参政権、国務請求権	国家への自由（社会権）、自由権との違いなど	2
	・広がる人権の考え方	さまざまな人権、人権保障と公共の福祉など	2
	第2節 日本の政治機構と政治参加	国民主権、議会制民主主義、権力分立など	2
	・国民主権と議会制民主主義	国会の役割、しくみ、国会と行政権・司法権など	2
	・国会のしくみと役割	議院内閣制のしくみ、行政の活動・課題など	2
	・内閣と行政の役割と責任	議院内閣制、大統領制、その他の政治体制など	3
	・世界の政治体制	司法のしくみ、裁判のしくみ、違憲審査権など	2
	・司法の役割と責任		
	後期末 後期末		<u>1</u>
・地方自治の役割	地方自治の考え方、課題など	2	
・政党政治のしくみとマスメディア	政党、政党政治の課題、世論とマスメディアなど	2	

4 課題・提出物等

授業内課題、宿題、自習課題 など
------------------

5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・課題などの提出物の取り組みや内容</li> <li>・小テスト、定期考査</li> <li>・出席状況</li> </ul> などから、総合的に評価します。			

6 担当者から一言

教科「公民」の基本的・基礎的な科目です。私たちが生きる現代社会ひいては現代世界・現代日本について、倫理、社会、文化、政治、経済、国際関係はもとより地理的・歴史的なことがらを交えてさまざまな観点から学習します。そして、現代社会との関連のなかで、自己の在り方や生き方と正義について考えていきます。
--

# 倫理

	公民科 倫理	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科：3 年次～
使用教科書	改訂版 倫理 (数研出版)				
副教材等	なし				

教科(科目)	公民(倫理)	単位数	2 単位	学科・学年・コース・組	普通科・3 年次～
使用教科書	数研出版『倫理』				
副教材等	なし				

## 1 科目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と、人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## 2 指導の重点

- ・青年期の意義と課題を理解させる。
- ・先哲の基本的な考え方を理解させ、人間の存在や価値について理解を深めさせる。
- ・現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせる。
- ・倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。

## 3 学習計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
前 期	○ガイダンス 第1編 現代に生きる自己の課題 1 人間とは何か 2 青年期の意義と課題 3 自我の発見と自己形成 4 パーソナリティの形成と生きがい	・倫理を学ぶ目的、学習計画  ・人間の多様性・多義性 ・青年期の身体的・社会的・心理的な特徴 ・アイデンティティ ・個性化、社会化、自己実現、生きがい	1  10	・学習態度  ・課題  ・ワーク	
	第2編 人間としての自覚 第1章 西洋思想の源流 第1節 古代ギリシアの思想 第2節 キリスト教 第3節 イスラーム 第2章 東洋思想の源流 第1節 古代インドの思想と仏教 第2節 中国の思想	・神話、哲学、ソクラテス、プラトン、アリストテレス ・ユダヤ教の歴史・特徴、イエス、キリスト教の成立背景、特徴 ・イスラーム成立の歴史的背景、現代イスラームの実情  ・バラモン教、ウパニシャッド哲学、ブッダの思想、 ・儒教文化、諸子百家、儒家や道家の思想内容	8  4	・ノート  ・定期考査	
	第3編 現代に生きる人間の倫理 第1章 西洋近代の思想 第1節 理性への信頼と人間の尊厳 第2節 自然・科学技術と人間 第3節 個人・社会と自由  第4節 民主社会の倫理	・近代化、ルネサンスと宗教改革 ・デカルト、ベーコンの思想 ・民主的、ホップズ・ロック・ルソーの思想、自由、 カントの認識論・道徳論、ヘーゲルの弁証法、倫理学 法と道徳、家族と社会と国家の関係 ・ベンサム、J.S.ミルの思想、幸福、プラグマティズム、 空想的社会主義、科学的社会主義、マルクス以降の社会主義	12   (35)		
	第2章 現代の思想 第1節 現代思想の流れ	・合理的思考、キルケゴール、ニーチェ、ヤスパース、 ハイデッガー、サルトルの思想 ・フロイト、ユング ・構造主義、フランクフルト学派、理性と非理性 ・レヴィナス、アーレント、ハーバーマス。他者、 相互的・協同的な営み、理性 ・自由、フロム、ウェーバー、リースマン ・ガンディー、シュヴァイツァー、ヒューマニズム ・キング、サイード、 ・ボランティア活動、社会活動	10	・学習態度  ・課題  ・ワーク	
	第2節 現代社会と生き方		8	・ノート  ・定期考査	
	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の伝統思想と東洋思想の受容 第1節 日本の風土と古代日本人の考え方	・日本の気候・地形・植生 ・清めや祓いなどの古代からの日本的罪観念 ・聖徳太子、空海、最澄、末法思想、鎌倉新仏教、浄土系仏教 ・日本朱子学、日本陽明学、古学派、国学、神道思想、洋学	8		
	第2節 仏教の受容と展開 第3節 儒学の受容と国学の発達				
	第2章 西洋思想の受容と近現代の日本の思想 第1節 近代の日本の思想 第2節 国際社会を生きる日本人	・明治維新、啓蒙思想、キリスト教思想、伝統思想、近代文学 ・グローバリゼーションとナショナリズム	4		
	後 期				



第5編 現代の諸課題と倫理			
第1節 生命倫理 (バイオエシックス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の生命科学</li> <li>・環境問題</li> <li>・家族形態、現代家族の課題</li> <li>・地域のもつ意義</li> <li>・情報公開制度、情報リテラシー</li> <li>・多文化主義、文化相対主義</li> <li>・人類福祉の意味</li> </ul>	5	
第2節 現代の環境問題			
第3節 家族のあり方			
第4節 地域社会とのかかわり			
第5節 情報社会の功罪			
第6節 さまざまな文化・宗教への理解			
第7節 国際平和と人類の福祉		(35)	
		70	

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題</li> <li>・ワーク</li> <li>・ノート</li> </ul>
---

#### 5 評価規準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に活かす知識として身に付けている。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への参加の仕方や態度</li> <li>・課題、ワーク、ノートなどの提出物などの内容や取り組み</li> <li>・小テスト、定期考査</li> </ul> <p>などから、総合的に評価します。</p>			

#### 6 担当者からの一言

<p>十代の後半は「青年期」の真つただなかです。自分自身の生き方・在り方について悩み、考える時期です。この科目は、自らの人格の完成をめざして意欲を高め、良識のあるひとりの人間として必要な能力や態度を身につける学習をします。そして、自己形成の課題と人間としての在り方・生き方について思索を深めていきます。</p> <p>【「政治・経済」と合わせて学習すると教科「公民」の卒業要件を満たします。】</p>
--

教科(科目)	公民科 政治経済	単位数	2単位	学科・学年・コース・組	普通科・3年次～
使用教科書	高等学校 新政治・経済(第一学習社)				
副教材等	なし				

## 1 学習の到達目標

広い視野に立って民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての資質を養う。

## 2 指導の重点

- ・民主政治の基本原理や、日本国憲法の基本的性格、国会・内閣・裁判所などの政治のしくみを理解させる。
- ・民主政治の本質や現代政治の特質を理解させ、主権者としての参政のあり方について考察させる。
- ・国際政治の動向や国際法の意義、国際機構の役割を理解させ、国際社会で日本が果たす役割について考察させる。
- ・資本主義経済のしくみや、国際経済のしくみを理解させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。

## 3 学習の計画

学期	単 元 名	学 習 活 動 (指 導 内 容)	時間	評価方法
前期	第1編 現代の政治			・学習態度 ・課題 ・自主的な取り組み ・定期考査
	第1章民主政治の基本原則と日本国憲法			
	①政治とは何だろうか?	・政治と社会、政治と国家、国家と法	2	
	②民主政治の展開	・民主主義思想の展開、法の支配の原則	2	
	③人権保障の発達	・基本的人権の確立、基本的人権の広がり	2	
	④議会制民主主義と政治の特質	・議会制民主主義、世界の主な政治体制	2	
	⑤日本国憲法の成立	・大日本帝国憲法の歩み、日本国憲法の成立	2	
	⑥日本国憲法の基本原則	・三つの基本原則、憲法の最高法規性、憲法改正手続き	2	
	⑦平和主義と自衛隊	・戦争の放棄、憲法と自衛隊、シビリアンコントロール	2	
	⑧日本の安全保障	・日米安全保障条約、基地問題、非核三原則、PKO	2	
	⑨安全保障と日本の防衛	・日米安全保障体制、集団的自衛権と防衛装備移転三原則	2	
	⑩法の下での平等と自由権	・法の下での平等、自由権	2	
	⑪豊かに生きる権利	・社会権、国民の義務と権利	1	
	⑫新しい人権	・新しい人権の主張、基本的人権と公共の福祉	1	
	⑬国会の組織と機能	・議会制民主主義の原理、国会の地位と構成		
	⑭国会の権限と衆議院の優越	・国会の運営と権限、衆議院の優越	2	
	⑮内閣の機構と機能	・内閣と国会の関係、行政の民主化と行政改革	2	
	⑯裁判所の機能と人権保障	・司法権の独立、裁判制度、違憲立法審査権	2	
⑰地方自治制度と住民の権利	・地方自治のしくみ、課題	1		
⑱政党政治と圧力団体	・政党政治、圧力団体	1		
後期	⑲日本の選挙制度とその課題	・選挙制度	1	・学習態度 ・課題 ・自主的な取り組み ・定期考査
	⑳世論と現代政治の課題	・マスメディアの役割と課題、一票の意味	1	
	第2章 現代の国際政治と日本			
	①国際社会と国際法	・国際法の意義と役割、国際紛争と国際裁判	1	
	②国際連合の組織と国際協力	・国際連合の成立、役割	1	
③第二次世界大戦後の国際協力	・冷戦下の国際政治、緊張緩和と多極化	1		

④今日の国際社会	・冷戦の終結、国際社会をめぐる新たな動向	1	・学習態度
⑤国際社会の特質と国際紛争の諸要因	・国際社会の特質、国際紛争の諸要因	1	・課題
⑥核兵器の廃絶と軍縮問題	・核兵器の脅威、冷戦後の軍縮	1	・自主的な
⑦国際平和と日本の役割	・新しい国際秩序を求めて	1	取り組み
第2編 現代の経済			・定期考査
第1章 現代経済のしくみと特質			
①資本主義経済のしくみとは？	・資本主義社会の特質、変容	1	
②資本主義経済の課題と社会主義経済の変容	・資本主義経済の課題、社会主義経済の変容	1	
③経済主体と経済活動	・三つの経済主体、株式会社、企業の役割と社会的責任	1	
④市場経済の機能と限界	・市場メカニズム、市場の失敗、競争と独占寡占	1	
④景気変動と経済成長	・国民所得と景気変動、経済成長と国民の福祉	1	
⑤インフレーションとデフレーション	・物価の変動、物価安定施策	1	
⑦財政のしくみとはたらき	・財政の役割、予算と財政投融资	1	
⑧租税と国債	・租税の課題、国債と国民生活	1	
⑨資金の循環と金融市場	・資金の流れ、金融の仕組み、銀行の信用創造	1	
⑩日本銀行と金融政策	・日本銀行の役割、金融の自由化	1	
⑪日本経済の発展	・戦後の復興、高度経済成長期	1	
⑫今日の日本経済	・バブルの発生と崩壊、規制緩和、豊かな社会の建設	1	
⑬中小企業と農業	・産業構造の高度化、中小企業の現状と課題、農業	1	
⑭消費者問題	・消費者主権、消費者行政	1	
⑮高度情報社会	・高度情報社会の現状、課題	1	
⑯労働関係の改善	・労働基本権、労働事情の変化	2	
⑰社会保障制度の充実	・社会保障の歩み、日本の社会保障制度	1	
⑱公害防止と環境保全	・公害問題、環境保護政策、循環型社会	1	
⑲地球環境問題	・資源エネルギー問題、国際的な取り組み		
第2章 国民経済と国際経済			
①国際経済のしくみ	・自由貿易と保護貿易、国際収支、国際資本移動	1	
②為替相場のしくみ	・外国為替取引、為替相場の変動要因	1	
③国際協調と国際経済機関の役割	・国際貿易とWTOの役割	1	
④地域的経済統合の動き	・FTA(自由貿易協定)とEPA(経済連携協定)の拡大	1	
⑤経済摩擦問題とグローバル化	・先進国間の貿易摩擦	1	
⑥国際経済の諸問題と日本の役割	・国際社会における日本の役割	1	
第3編 現代社会の諸課題			
第1章 現代日本の政治や経済の諸課題			
①少子高齢社会と社会保障	・社会保障	1	
②地域社会の変貌と住民生活	・住民と地方自治	1	
③雇用と労働をめぐる問題	・今日の労働問題	1	
④中小企業問題	・中小企業の地位と役割	1	
⑤農業と食料問題	・低い食料自給率	1	
第2章 国際社会の政治や経済の諸課題			
①地球環境と資源・エネルギー問題	・新たな技術開発	1	
②国際経済格差の是正	・発展途上国の自立と国際協力		
③人種・民族問題と地域紛争	・人種・民族問題		
④国際社会における日本の立場と役割	・国際社会のなかの日本		

--	--	--	--	--

4 課題・提出物等

課題、自主的な学習の取り組み、など
-------------------

5 評価基準・評価方法

評価は次の4つの観点から行います			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・小テスト、定期考査 ・学習活動への参加の仕方や態度 ・出席状況 ・課題、ワーク、ノートなどの提出物などの内容や取り組み などから、総合的に評価します。			

6 担当者から一言

現代日本の民主政治を中心に学び、政治的な見方や考え方を身につけていきます。教科書内容も重要ですが、高校卒業後の社会生活に不可欠なことがらを多く学ぶため、政治的なニュースなどを織り交ぜた授業展開となります。報道番組や新聞記事に自ら興味関心をもって、授業を受ける必要があります。
---